

2. 流域及び河川の自然環境

2-1. 流域の自然環境

広い流域を持ち、上下流に渡って様々に環境の変化する石狩川水系では、多種多様な生物の生息・生育が確認されている。上流域においては、森林環境と清流に恵まれ、それを好むアカゲラなどの鳥類や、ハナカジカやキタノトミヨなどの魚類が確認されている。中流域では、河畔林や、旧川、河跡湖などの環境も豊富で、周囲に農地が広範に広がっていることからオオジシギ等の草原性の鳥類や各種のガン・カモ類が見られるほか、魚類ではウグイ類、フクドジョウなどが確認されている。下流域では、河口部において、海浜植生であるハマナスの群落や湿性林の中で生育するミズバショウ群落があるほか、ガン・カモ類に加えてシギ・チドリ類の水鳥の生息が多く見られ、魚類についてはワカサギやトミヨ類の生息が確認されている。また、上流から下流までの全川において清流環境を好むカワセミの生息が確認されているほか、サケ、サクラマス、カワヤツメ等の移動性の魚類が広い範囲で確認されている。



石狩川河口域のハマナスの丘（kp2.00付近）



石狩川のミズバショウ群落（KP7.00付近）



河岸の植生の状況（KP63.00付近）



奈井江大橋(KP76.80付近)

※ハマナスの丘写真出典：北海道新聞社
※その他写真出典：北海道開発局

(植生)

流域の源流部に位置する大雪山系では、源流部ではハイマツやダケカンバ、針広混交林などの高山帯の自然植生が分布しており、特徴的な植生分布が見られる。その他の山地丘陵部についてはイタヤカエデ、シナノキなどを主体とした落葉広葉樹が広がっており、部分的に針葉樹の人工林も形成されている。低地の多くは農地として利用されており、このため自然植生は少ないものとなっているが、沿川や旧川などには河畔低湿地林が形成されており、ハンノキやハルニレなどの植生が見られるほか、改修後の河川においてはヤナギ林が主体となっている。

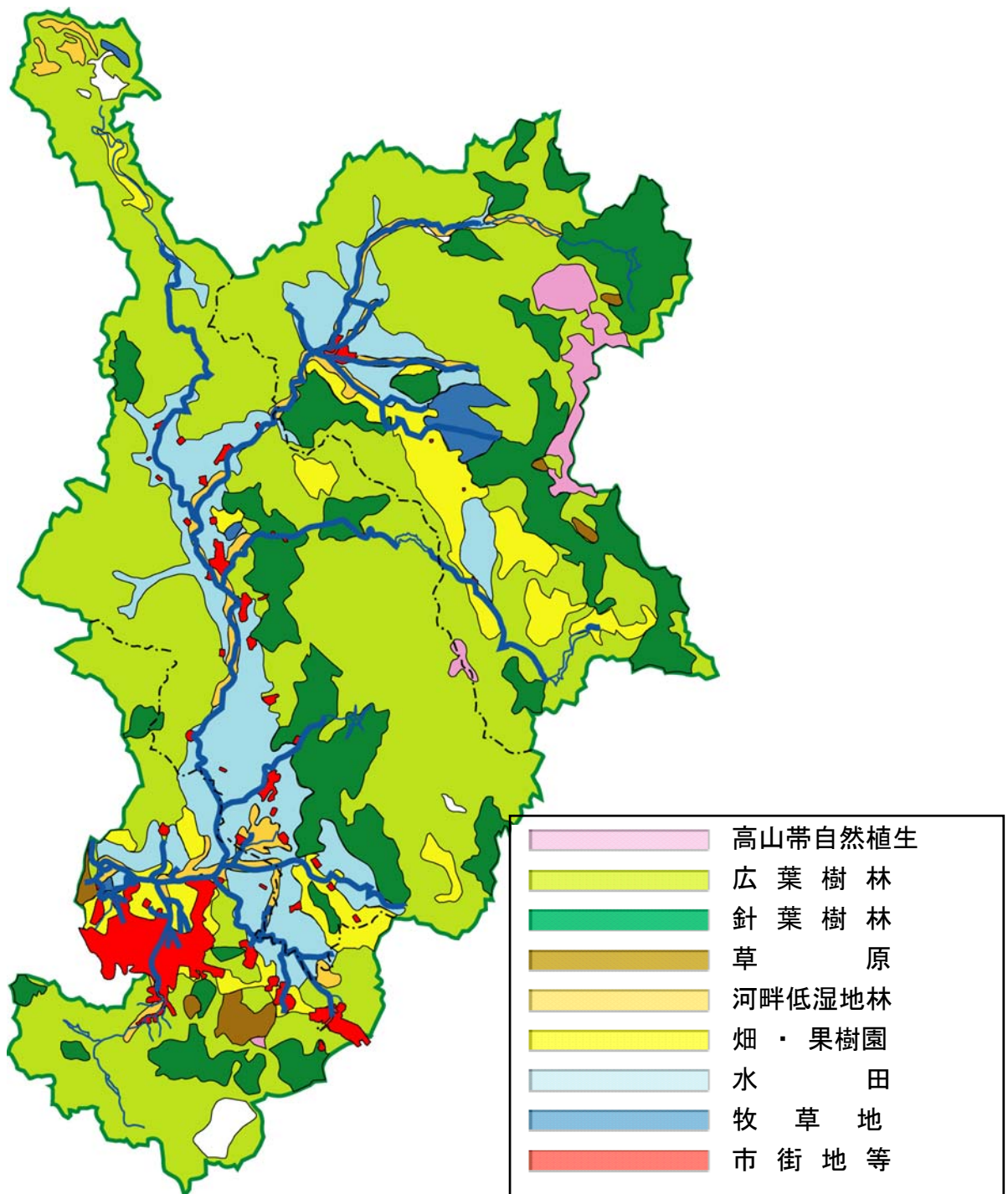


図2-1 植生図

※第2、3回自然環境保全基礎調査（植生調査）を基に作成

（哺乳類）

石狩川流域には、エゾシカ・ヒグマ・エゾリス・キタキツネ・エゾタヌキなど、北海道各地で確認される一般的な哺乳類の生息が確認されている。その多くは人里離れた人為的干渉が少ない山岳森林地帯を主な生息場所としており、流域の中・下流域で目撃されることは少ない。

沿川で確認されている哺乳類は、キタキツネ、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミなどとなっている。

（鳥類）

石狩川流域では、200～250種が生息するものと考えられている。上流域の山間では、オオルリ、キセキレイなどの渓流性やハシブトガラ、アカゲラなどの森林性の鳥類が多く、中・下流域の平地ではマガモ、コガモ、カワセミなどの水鳥と水辺の鳥が多く確認されており、河口に近づくにつれ、オオジシギなどの草原性の鳥類やシギ・サギ類が多く確認されるようになる。また、ラムサール条約登録湿地である宮島沼や日本の重要湿地500に選定されている石狩川流域湖沼群などがあり、マガンやヒシクイ、コハクチョウなどのガン・カモ類の渡り鳥の中継地となっている。また、上下流を通してオオジシギやショウドウツバメ、カワセミが確認されているほか、オオタカなどの猛禽類も確認されている。

（両生類・は虫類）

石狩川の沿川では、両生類についてはエゾサンショウウオ、ニホンアマガエル、エゾアカガエル、は虫類についてはカナヘビ、ニホントカゲが確認されている。エゾサンショウウオは、上下流に広く分布しており、河川空間の水溜りやワンドなどで確認されている。

（魚類）

石狩川はサケの遡上する河川であり、魚道の設置などにより生息域の拡大が図られ、近年では旭川市街地区間でも遡上が確認されている。

ウグイ類、フクドジョウについては、石狩川本支川で広範囲に生息している。また、サクラマス、カワヤツメなどが生息し、上流域ではハナカジカなどの清流を好む種が確認されている。サケ、ワカサギ、カワヤツメ等は漁業対象となっている。

（昆虫類）

石狩川流域の沿川において確認されている種としては、上流域でオナガアゲハ、エゾカミキリ、中流域でカバイロシジミ、ギンイチモンジセセリ、下流域ではオオルリオサムシ、キタイトトンボの生息が確認されている。

（底生動物）

石狩川の沿川で確認されている底生動物は、上流域ではカゲロウ目やトビケラ目、中流域ではユスリカ科などが確認されており、下流では感潮区間もあることから、ヤマトシジミやスジエビなどの生息も確認されている。ヤマトシジミについては石狩川河口付近の浅瀬域などに生息しており、この環境が日本の重要湿地500に選定されている。

表2-1 石狩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

魚類	カワヤツメ <i>Lethenteron japonicum</i>	幼生は河川中流域の淵や下流のやわらかい泥の中で生活する。変態後の若魚は水流が強くあたり、湿生植物の根が露出している場所にひそむ。産卵場は河川中流域の淵尻や平瀬である。石狩川本川の中下流で確認されているほか、幾春別川、夕張川、千歳川、豊平川などで確認されている。
	サケ <i>Oncorhynchus keta</i>	砂利底から地下水の湧き出るところを産卵場とする習性を持つ。生まれた稚魚の淡水生活期間が数日から長くとも1〜2ヶ月と短いことから、主に中・下流域が生息場所となる。秋に遡上・産卵する。石狩川本川の下流で確認されているほか、近年では旭川市街地区間においても遡上が見られる例がある。
	サクラマス <i>Oncorhynchus masou masou</i>	特定種。4月ごろより遡上し、9月から10月にかけて産卵する。河川水の浸透する砂礫底の淵から瀬に移るところが産卵場所となる。孵化後、稚魚は少なくとも一年間の淡水生活を送り、降海する。石狩川本川の下流で確認されているほか、近年では本川上流などでも確認されている。
	ワカサギ <i>Hypomesustranspacificus nipponensis</i>	海の内湾、湖沼、人工湖と、これらに注ぐ川の下流域に生息する。産卵期は1〜5月頃で、湖沼や川の岸、川底で枯れ木や水草、水没した枯れ草、茎、枝、根などに産卵する。石狩川本川に広く分布が確認されているほか、雨竜川、空知川、夕張川などで確認されている。
	降海型イトヨ <i>Gasterosteus aculeatus</i>	特定種。北海道では海岸に近い平野部に分布する。2月下旬頃から河川に遡上し始め、小川や水田の溝等に生息する。餌は主に水生昆虫や小型の甲殻類である。流れの緩やかな砂泥底にすり鉢状の窪みをつくり、水草の繊維等で蓋をし、泥をかぶせてトンネル状の巣をつくり産卵する。石狩川本川の下流で確認されているほか、千歳川などで確認されている。
両生類	エゾサンショウウオ <i>Hynobius retardatus</i>	特定種。平地から高地まで広く分布し、森林と止水がある場所や緩やかな流れの沢などに生息する。繁殖期は4月から7月にかけて雪解け水が集まる池沼などの岸辺に産卵する。また、平野部の河川域においては特に貴重な種である。石狩川本川の上流及び下流で確認されているほか、忠別川、空知川などで確認されている。
鳥類	ヒシクイ <i>Anser fabalis</i>	特定種。旅鳥で秋と春に渡来する。浅い湖沼や水田に飛来し、水草の一種であるヒシの根や茎を食べたり、穀物や牧草なども食べる。石狩川本川の中流及び下流で確認されているほか、幾春別川、千歳川などで確認されている。
	オシドリ <i>Aix galericulata</i>	特定種。夏鳥として渡来する。山間の溪流や山地の湖沼などに生息するが、周囲に木の多い場所を好む。大木の樹洞などで繁殖する。主に植物質のものを餌とし、特にカシ類、ナラ類のどんぐりを好む。石狩川本川に広く分布が確認されているほか、忠別川、美瑛川、雨竜川、空知川、幾春別川、千歳川などで確認されている。
	チュウヒ <i>Circus spilonotus</i>	特定種。少数は北日本で繁殖するが、多くは冬鳥として渡来する。草地、農耕地、牧草地などに生息し、背丈の高い草の中、林の中に姿を隠して休息していることが多い。石狩川本川の下流で確認されているほか、夕張川などで確認されている。
	チョウゲンボウ <i>Falco tinnunculus</i>	草地、河口、川岸、農耕地など開けた場所に生息し、ネズミ、昆虫、小鳥を餌としている。石狩川本川の中流及び下流などで確認されている。
	クイナ <i>Rallus aquaticus</i>	主に北海道で繁殖する夏鳥。牧草地や湿地、水田、草のある水辺で生息し、繁殖期には枯れたアシや草などで皿形の巣をつくり営巣する。小昆虫、小魚、エビなどの動物質から草の実などの植物質まで色々なものを餌とする。石狩川の下流で確認されているほか、雨竜川などで確認されている。
	ヒクイナ <i>Porzana fusca</i>	夏鳥として渡来する。湖沼、川、水田などの水辺やアシ原など湿った場所に生息し、繁殖期以外は単独で生活をしている。水辺のイネ科植物などの株の中にアシや草の枯れ葉で皿形の巣をつくり、営巣する。昆虫などの動物質を餌とするが、植物の実などを食べることもある。石狩川本川の下流などで確認されている。
	オオジシギ <i>Gallinago hardwickii</i>	特定種。夏鳥として渡来する。繁殖期には湿生の草原とその周辺で生息する。長い嘴を泥の中に突きさして小動物を捕らえる。石狩川本川に広く分布が確認されているほか、忠別川、美瑛川、雨竜川、空知川、幾春別川、夕張川、千歳川などで確認されている。
	カワセミ <i>Alcedo atthis</i>	特定種。山地から平地の川、池、湖沼などの水辺に生息する。止水域や緩流域などに生息する水生昆虫や魚介類を餌とする。石狩川本支川に渡って広く分布している。
	ショウドウツバメ <i>Riparia riparia</i>	夏鳥として渡来し、日本では北海道だけで繁殖するが、近年は少なくなってきた。川、湖沼。海岸近くの土手や崖などに横穴を掘って巣をつくり、集団で営巣する。空中を飛び昆虫類を飛びながら捕食する。石狩川本川に広く分布が確認されているほか、忠別川、美瑛川、雨竜川、空知川、夕張川、千歳川などで確認されている。
	シマアオジ <i>Emberiza aureola</i>	特定種。夏鳥として渡来し、北海道の低地の草原に繁殖するが、生息数は少ない。草原の地上に営巣し、主に昆虫類などを餌とする。石狩川本川の中流及び下流で確認されているほか、千歳川などで確認されている。
陸上昆虫等	オオルリオサムシ <i>Damaster gehinii</i>	特定種。成虫は4月下旬から10月ごろまで見られ、平地から山地の林や草地に生息する。肉食性でカタツムリ類、ミズミズ類などを捕食する。地方亜種が多く記録されている。石狩川本川の下流などで確認されている。
	ケマダラカミキリ <i>Agapanthia daurica</i>	特定種。成虫は6月から8月に出現し、ハンゴンソウやヨモギ類などのキク科植物に集まる。石狩川本川の上流及び下流で確認されているほか、空知川などで確認されている。
	エゾカミキリ <i>Lamia textor</i>	特定種。カワヤナギ類を食樹する。幼虫は7・8月頃ヤナギ類に集まるが生息数は少ない。石狩川本川の上流で確認されているほか、忠別川、雨竜川、空知川などで確認されている。
	アカマダラ <i>Araschnia levana obscura</i>	北海道特産種。平地から低山地の林道沿いや林間の小草原に生息する。幼虫は群生し、若齢時は吐糸で葉をつくり簡単な巣を造る。幼虫はエゾイラクサ、ホソバイラクサ等を食すが、摂食量が多く食草を丸坊主にする。空知川などで確認されている。
植物	ミズアオイ <i>Monochoria korsakowii</i>	特定種。湖沼、河川、水路の残水域や水田（特に休耕地）などに群生する大型の抽水性一年草。石狩川本川の下流などで確認されている。
	カキツバタ <i>Iris laevigata</i>	特定種。水湿地や水辺などの日当たりのよい水深約20cm以内の沼沢地に群生している抽水性多年草。石狩川本川の下流などで確認されている。
	ミクリ <i>Sparganium erectum ssp.stoloniferum</i>	特定種。池沼や水路、水湿地などの浅い水中に群生する抽水植物。本種の生育環境は水溜りや止水部であり、このような止水部はヤンマ類などの幼虫の生息場所となっており、比較的小規模なものであっても水生生物にとって重要な空間となっている。石狩川本川で分布が確認されているほか、夕張川、千歳川などで確認されている。
	ミズバショウ <i>Lysichiton camtschatcense</i>	平地や山岳地帯にある池沼や小川の水辺に群生する抽水性の大型多年草。生育地の好適条件として、開花・結実の時期には十分な水湿と日当たりの良い場所が必要である。石狩河口橋上流左岸のマクンベツで群落が確認されているほか、夕張川などで確認されている。
	ヒメガマ <i>Typha angustifolia</i>	平地にある池沼、河川の水際、特に海岸近くにある水辺の残水中に大群生する。水深は1.5mまで耐えることができる。大型抽水植物で魚類などの産卵・生息・避難場所に利用される。空知川などで確認されている。



サケ



産卵するサケ（豊平川東橋付近）



サクラマス



カワヤツメ



ワカサギ



降海型イトヨ



エゾサンショウウオ



ケマダラカミキリ



ミズバショウ



ミクリ



オオジシギ



ヒシクイ



オンドリ



チュウヒ



カワセミ

2-2. 河川及びその周辺の自然環境

① 上流域

源流から上川盆地に至るまでの石狩川は、大雪ダムを經由して、柱状節理の断崖を流れる層雲峡に代表される山間渓谷美に富んだ清流となっている。

植生は層雲峡より上流は、標高700m～800m以上の高山地帯であり、ハイマツ帯、ダケカンバ帯、針葉樹帯、針広混交林帯の分布が見られる。層雲峡より下流においては低山地や丘陵地部分では、広葉樹林によって占められており、イタヤカエデ、シナノキなどを主体とし、林床にクマイザサなどを持つ樹林地が見られる。広大な水田地帯の広がる上川盆地に入り、北海道第2の都市である旭川市の中心部を貫流して山間狭窄部の神居古潭に至るまでの区間は、礫河床の扇状地河川になっている。河畔については、ヤナギ林が主体となっているほか、オオヨモギなどの草本類も見られ、湿性植生であるミクリも確認されている。

鳥類は源流周辺の山間では、溪流性や森林性の鳥類が多く、平地の中州や河原が良く発達している部分では、オオジシギやマガモ、コガモ、カワラヒワなどが確認されているほか、オオタカなどの猛禽類も見られる。また、清流に生息するカワセミなども見られる。

魚類は、源流に近い山間域では溪流性の魚類であるオショロコマ、アメマス、ハナカジカなどが生息している。山間域を抜けてからは、フクドジョウやハナカジカなどの中上流域を好む種が生息しているほか、スナヤツメ、キタノトミヨなども確認されている。近年では、頭首工等への魚道の設置によりサケ、サクラマスの遡上も確認されている。

また、上流と中流との間には神居古潭と呼ばれる、岩塊の露出した溪谷があり、特徴的な地形を呈しているほか、この部分で、甌穴（おうけつ）と呼ばれる、岩のくぼみに入った小石が激流によって回転し、くぼみを削って大きくなるという現象も見られ、旭川市の天然記念物に指定されている。



金星橋(KP158.00)付近

※写真出典：北海道開発局

表2-2 石狩川水系上流域における確認種

区分	確認種
植生	ススキ、クサヨシ、ミクリ、ヤナギ、ドロノキ、オニグルミ、ケヤマハンノキ、シラカンバ、ミズナラ、ハルニレ、ハリエンジュ、イタヤカエデ、シナノキ、カツラ、カハラハコ、オオヨモギ、ヨシ、クマイザサ他
鳥類	アオサギ、コハクチョウ、オシドリ、マガモ、コガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、ハイタカ、チゴハヤブサ、イソシギ、オオジシギ、ヤマセシ、カワセシ、オオアカゲラ、コアカゲラ、ショウドウツバメ、キセキレイ、アカモズ、オオルリ、ハシブトガラ、カワラヒワ他
魚類	スナヤツメ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、エゾウグイ、ウグイ、モツゴ、ドジョウ、フクドジョウ、ワカサギ、サケ、ニジマス、サクラマス、アメマス、オショロコマ、キタノトミヨ、ハナカジカ他
両生類・は虫類	エゾサンショウウオ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、エゾアカガエル、ニホントカゲ、カナヘビ、シマヘビ他
陸上昆虫类等	エゾイトトンボ、シオカラトンボ、ヒロバネヒナバタ、ヒシバタ、ルリシジミ、カバイロシジミ、ベニシジミ、ヒメウスバシロチョウ、ケマダラカミキリ、エゾカミキリ他
底生動物	イトミミズ科、ユスリカ亜科、エリユスリカ亜科、キタシマトビケラ、オオマダラカゲロウ、コオイムシ、クシゲマダラカゲロウ、コガタシマトビケラ、アカマダラカゲロウ他
哺乳類	エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、コウモリ目、エゾユキウサギ、エゾリス、エゾシマリス、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、ヒメネズミ、ドブネズミ、エゾタヌキ、キタキツネ、エゾクロテン、ミンク、イタチ、エゾシカ他

※北海道開発局調べ

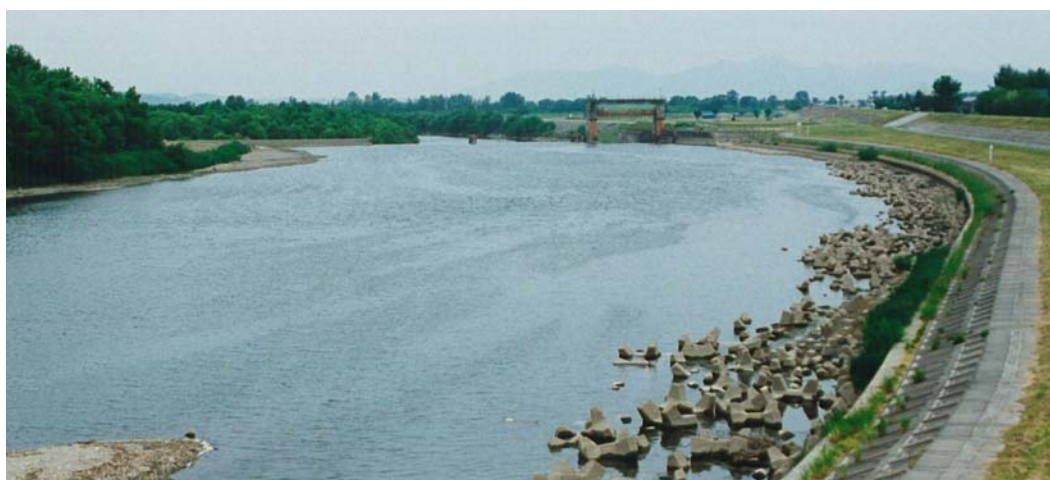
② 中流域

石狩平野北部に位置する神居古潭から空知川合流点までの区間は、砂礫河床になっている。

河畔沿いには水際に近い位置でケヤマハンノキなどの高木やヤナギ林が分布しており、イタヤカエデ・シナノキ群落やヨシ群落が点在しているほか、水際にはミクリなどの貴重な植生も確認されている。

鳥類についてはオシドリ、ヒシクイなどの水鳥やオオジシギ、シマアオジなどの草原性の鳥類が確認されていると共に、ショウドウツバメやカワセミの営巣地も確認されている。このほか、オオタカなどの猛禽類やカワラヒワ、セイタカシギも確認されている。

魚類については、ウグイ類やフクドジョウが優占しているほか、サケやサクラマスの上流も見られる。このほか、スナヤツメ、シベリアヤツメなども確認されている。



深川橋(KP121.50)付近

※写真出典：北海道開発局

表 2－3 石狩川水系中流域における確認種

区分	確認種
植生	ススキ、クマイザサ、ミクリ、ヤナギ、カシワ、ハリエンジュ、ミズナラ、ハルニレ、イタヤカエデ、エゾイタヤ、シナノキ、ケヤマハンノキ、オオヨモギ、ヨシ他
鳥類	アオサギ、ヒシクイ、コハクチョウ、オシドリ、マガモ、コガモ、ミコアイサ、オジロワシ、オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ウズラ、イソシギ、オオジシギ、セイタカシギ、ヤマセミ、カワセミ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、アカモズ、オオヨシキリ、シマアオジ、カワラヒワ他
魚類	スナヤツメ、シベリアヤツメ、カワヤツメ、タイリクバラタナゴ、エゾウグイ、ウグイ、ウグイ属、モツゴ、フクドジョウ、ナマズ、ワカサギ、イシカリワカサギ、サケ、ヤマメ、ヨシノボリ類他
両生類・は虫類	アマガエル、エゾアカガエル他
陸上昆虫類等	ギンイチモンジセセリ、カバイロシジミ、ウズバキトンボ、マユタテアカネ、ヒメアカネ、ヒナバッタ、ハラヒシバッタ、ギンイチモンジセセリ、カバイロシジミ、ベニシジミ他
底生動物	エリユスリカ亜科、アカマダラカゲロウ、キタシマトビケラ他
哺乳類	オオアシタガリネズミ、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、エゾタヌキ、キタキツネ、イタチ他

※北海道開発局調べ

③ 下流域

空知川合流点から河口までの区間は、捷水路事業を中心とする治水事業や自然短絡により数多くの旧川(三日月状の河跡湖)が残され、石狩川を象徴する壮大な景観を醸し出している。河畔沿いには水際に近い位置でヤナギ林が分布しており、低湿な泥炭地ではハンノキやヨシが見られるほか、河口から6km～8km上流の左岸はハンノキ林とその林床に生育するミズバショウ群落が発達した特徴的な環境となっているマクンベツ湿原が存在する。河口部周辺には砂丘植物群落が形成されており、中でもハマナスが大きな群落を形成している。また、沿川では、ミクリ、カキツバタ、ミズアオイなどの湿性植物も多く見られる。

河口部については、干潟などの環境に生息するシギ・チドリ類やガン・カモ類やカモメ類などの水鳥の飛来が見られる。それよりも上流側については、ゆるやかな流況特性を反映して、水鳥の飛来が多く、マガン、コハクチョウ、ヒシクイ、オシドリなどのガン・カモ類が見られる。また、シマアオジやオオジシギなども見られるほか、オジロワシ、オオワシなどの猛禽類も見られ、カワセミ、ショウドウツバメの営巣地、カケス、ハシブトガラのねぐらも確認されている。また、沿川の旧川などは、マガンやコハクチョウなどの渡り鳥の極めて重要な中継地となっており、ラムサール条約の登録湿地である宮島沼を始めとする湖沼が点在し、地域の重要な環境資源となっている

魚類についてはウグイ類やワカサギ、アシシロハゼが優占しているほか、ギンブナなどの下流の環境を好む種が見られる。また、スナヤツメ、カワヤツメ、イシカリワカサギ、降海型イトヨなども確認されており、サケやサクラマスの上流も見られるほか、汽水環境を好むシラウオなども見られる。ワカサギやカワヤツメは漁業の対象となっている。



奈井江大橋(KP76.80)付近

※写真出典：北海道開発局

表2-4 石狩川水系下流域における確認種

区分	確認種
植生	クサヨシ、クマイザサ、マコモ、カキツバタ、ミズバショウ、ミクリ、ヤナギ、カシワ、ハリエンジュ、ハンノキ、エゾイタヤ、シナノキ、ケヤマハンノキ、ヒシ、ミズアオイ、ハマナス、オオヨモギ、ヨシ他
鳥類	チュウサギ、アオサギ、コウノトリ、マガン、ヒシクイ、コハクチョウ、オシドリ、マガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサ、ミサゴ、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、ハイタカ、チュウヒ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウ、ウズラ、クイナ、ヒクイナ、コチドリ、ハマシギ、オオジシギ、セイタカシギ、ウミネコ、カワセミ、コアカゲラ、ショウドウツバメ、アカモズ、ハシブトガラ、シマアオジ、カワラヒワ、カケス他
魚類	スナヤツメ、シベリアヤツメ、カワヤツメ、ニシン、カタクチイワシ、コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、エゾウグイ、ウグイ、ウグイ属、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ナマズ、ワカサギ、イシカリワカサギ、シラウオ、サケ、サクラマス、降海型イトヨ、メナダ、ジュズカケハゼ、アシシロハゼ、ヨシノボリ類、ヌマチチブ、ヌマガレイ他
両生類・は虫類	エゾサンショウウオ、ニホンアマガエル、エゾアカガエル、ツチガエル、ニホントカゲ、カナヘビ他
陸上昆虫類等	アキアカネ、ノシメトンボ、カンタン、ヒナバッタ、ベニシジミ、エゾスジクロシロチョウ亜種、オオルリオサムシ、ケマダラカミリ他
底生動物	ヤマトシジミ、ゴカイ、エリユスリ科亜科、イトミミズ科、オヨギミミズ科、アミ目、コガタシマトビケラ属、キタシマトビケラ、スジエビ他
哺乳類	オオアシトリネズミ、エゾユキウサギ、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ属、クマネズミ属、アライグマ、エゾタヌキ、キタキツネ、イタチ、エゾシカ他

※北海道開発局調べ

④ 支川

支川の忠別川は、大雪山国立公園を源とする河川であり、上流は自然樹林地に覆われた溪流であり、溪流性の魚類や森林性の鳥類が多く、自然環境豊かなものとなっている。下流は旭川市街地を貫流する急流河川であり、瀬、淵が多数存在している。ヤナギ類を中心とした河畔林が点在している。魚類はフクドジョウやハナカジカなどが生息し、鳥類については、オオジシギ、カワラヒワなどが確認されている。



忠別川大正橋(KP6.20)付近

※写真出典：北海道開発局

表 2－5 忠別川における確認種

区分	確認種
植生	ススキ、クサヨシ、ドロノキ、ヤナギ、エゾヤマハギ、オニグルミ、ケヤマハンノキ、シラカンバ、ミズナラ、ハルニレ、ハリエンジュ、イタヤカエデ、カツラ、ヤマグワ、ヤチダモ、カワラハコ、オオヨモギ、ヨシ、クマイザサ他
鳥類	アオサギ、オシドリ、マガモ、カワアイサ、トビ、チゴハヤブサ、コチドリ、イソシギ、ヤマシギ、オオジシギ、カワセミ、コアカゲラ、ショウドウツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワガラス、カワラヒワ他
魚類	ウグイ、ドジョウ、フクドジョウ、ニジマス、ハナカジカ他
両生類・は虫類	エゾサンショウウオ、ニホンアマガエル、エゾアカガエル、シマヘビ他
陸上昆虫類等	ウスバキトンボ、カバイロシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウ、エゾカミキリ他
底生動物	エリユスリカ亜科、イトミミズ科、エルモンヒラタガゲロウ、コガタシマトビケラ、トウヨウモンカゲロウ他
哺乳類	エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾユキウサギ、エゾリス、エゾシマリス、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、ヒメネズミ、キタキツネ、エゾクロテン、イタチ他

※北海道開発局調べ

忠別川の支川である美瑛川は、大雪山国立公園を源とする河川であり、上流は自然樹林地に覆われた溪流となっている。下流については、河岸の多くがヤナギ類を中心とした河畔林が点在している。魚類はフクドジョウやエゾイワナなどが生息しアオサギ、カワラヒワなどの鳥類が確認されているほか、オオタカなどの猛禽類も見られる。



美瑛川両神橋(KP1.00)付近

※写真出典：北海道開発局

表 2－6 美瑛川における確認種

区分	確認種
植生	ススキ、クサヨシ、イワノガリヤス、ドロノキ、ヤナギ、エゾヤマハギ、オニグルミ、ケヤマハンノキ、シラカンバ、ミズナラ、ハルニレ、ハリエンジュ、イタヤカエデ、シナノキ、カツラ、ヤマグワ、ヤチダモ、カワラハコ、オオヨモギ、ヨシ、クマイザサ他
鳥類	アオサギ、オシドリ、マガモ、ホオジロガモ、カワアイサ、オオタカ、ハイタカ、チゴハヤブサ、イソシギ、オオジシギ、カワセミ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、カワガラス、カワラヒワ他
魚類	スナヤツメ、ギンブナ、ヤチウグイ、エゾウグイ、モツゴ、ドジョウ、フクドジョウ、ニジマス、エゾイワナ他
両生類・は虫類	ニホンアマガエル、エゾアカガエル他
陸上昆虫類等	ナキイナゴ、ヒシバツタ、ギンイチモンジセセリ、ルリシジミ、カバイロシジミ他
底生動物	ヤマトビケラ属、コカゲロウ属、エリユスリカ亜科、クシゲマダラカゲロウ、キタシマトビケラ他
哺乳類	エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾユキウサギ、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、カラフトアカネズミ、ヒメネズミ、ドブネズミ、キタキツネ、エゾクロテン、イタチ他

※北海道開発局調べ

支川の雨竜川は、石狩川水系のなかでも多雨豪雪の流域を流れ、源流の山地から幌加内盆地を経て、丘陵樹林の山間を抜けた後、石狩川と合流している。上流域は、樹林に覆われる自然河川となっており、中流域の幌加内盆地では河岸にヤナギ類やイタヤカエデ・シナノキ群落などの落葉広葉樹が繁茂する。魚類についてはウグイ類、スナヤツメなどが生息し、最上流にある朱鞠内湖にはイトウが生息している。また、鳥類はオオジシギ、カワセミなどが確認されている。下流域では河岸にヤナギ林が点在し、部分的にヨシなどの湿性植物も生育している。魚類ではスナヤツメ、シベリアヤツメなどが生息し、オオジシギ、カワセミなどの鳥類が確認されているほか、マガンなどのガン・カモ類も見られる。



雨竜川清月橋(KP73.00)付近

※写真出典：北海道開発局

表 2－7 雨竜川における確認種

区分	確認種
植生	クマイザサ、ヤナギ、エゾイタヤ、シナノキ、ハリエンジュ、ケヤマハンノキ、オオヨモギ、ヨシ他
鳥類	アオサギ、マガン、オシドリ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ウズラ、クイナ、コチドリ、イソシギ、オオジシギ、カワセミ、ショウドウツバメ、アカモズ、カワラヒワ他
魚類	スナヤツメ、シベリアヤツメ、ギンブナ、エゾウグイ、ウグイ、ウグイ属、モツゴ、ドジョウ、フクドジョウ、ワカサギ、イトウ、ジュズカケハゼ、ヨシノボリ類他
両生類・は虫類	ニホンアマガエル、ツチガエル他
陸上昆虫類等	キタイトトンボ、アキアカネ、ケラ、ハラヒシバツタ、カバイロシジミ、モンシロチョウ、エゾカミキリ他
底生動物	エリユスリカ亜科、オヨギミズ科の一種、イトミミズ科の一種他
哺乳類	オオアシタリネズミ、エゾヤチネズミ、アカネズミ属、キタキツネ、イタチ他

※北海道開発局調べ

支川の空知川は、石狩川水系最大の支川であり、河川延長が195kmと最も長い。上流域は、周辺に耕作地帯が広がり、河岸には連続したヤナギ類を中心とした河畔林が発達しており、落葉広葉樹林に隣接する区間も混在する。魚類は、ウグイ類、フクドジョウが確認されており、最上流にあるかなやま湖にはイトウが生息している。また、鳥類はカワセミ、カワラヒワが確認されているほか、ハイタカなどの猛禽類も確認されている。下流域には、魚類ではスナヤツメ、シベリアヤツメなどが生息し、鳥類ではオオジシギ、カワセミなどが確認されているほか、オオタカなどの猛禽類、マガモなどのガン・カモ類も見られる。



空知川新空知橋(KP68.00)付近

※写真出典：北海道開発局

表 2－8 空知川における確認種

区分	確認種
植生	ススキ、クサヨシ、イワノガリヤス、クマイザサ、ヤナギ、ドロノキ、カシワ、ハリエンジュ、オニグルミ、ケヤマハンノキ、シラカンバ、ミズナラ、ハルニレ、ハリエンジュ、イタヤカエデ、カツラ、ヤマグワ、ヤチダモ、エゾイタヤ、シナノキ、ヒシ、ヒメガマ、オオヨモギ、ヨシ他
鳥類	カワウ、アオサギ、コハクチョウ、オシドリ、マガモ、オジロワシ、オオタカ、ハイタカ、コチドリ、イソシギ、オオジシギ、カワセミ、オオアカゲラ、コアカゲラ、ショウドウツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、アカモズ、カワラヒワ他
魚類	スナヤツメ、シベリアヤツメ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、エゾウグイ、ウグイ、ウグイ属、モツゴ、ドジョウ、フクドジョウ、ナマズ、ワカサギ、イトウ、ヨシノボリ類他
両生類・は虫類	エゾサンショウウオ、ニホンアマガエル、エゾアカガエル他
陸上昆虫类等	シオカラトンボ、アキアカネ、ノシメトンボ、エゾツユムシ、クルマバッタモドキ、ギンイチモンジセセリ、カバイロシジミ、アカマダラ、コヒョウモン、ヒメウスバシロチョウ、ケマダラカミキリ、エゾカミキリ他
底生動物	エリユスリカ亜科、Antocha属の一種他、コガタシマトビケラ属
哺乳類	オオアシタガリネズミ、エゾユキウサギ、エゾリス、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、ヒメネズミ、ドブネズミ、ヒグマ、アライグマ、エゾタヌキ、キタキツネ、エゾクロテン、ミンク、イタチ、エゾシカ他

※北海道開発局調べ

支川の幾春別川は、源流を富良野芦別道立自然公園に発しており、上流域の桂沢ダム周辺は針広混交林、桂沢ダム下流は落葉広葉樹に覆われ、渓流性の魚類や森林性の鳥類の生息する自然環境豊かな河川となっている。桂沢ダム湖ではサクラマス、ワカサギなどの魚類が確認されており、鳥類はクマゲラ、コノハズクなどが確認されている。中流域は山間平野の中を流れており、河岸にはヤナギが点在し、部分的に山地丘陵の落葉広葉樹林に隣接する区間もある。魚類は、ウグイ類が確認されており、鳥類はオオジシギ、カワセミなどが確認されているほか、クマタカなどの猛禽類も見られる。下流域は、市街地や農地に隣接しており、市街地区間では植生も少なく、農地区間ではヤナギ林が点在する程度となっている。魚類は、ウグイ類、サクラマス、ハナカジカなどが確認されており、鳥類は、オオジシギ、カワセミなどが確認されているほか、マガン、コハクチョウなどのガン・カモ類も見られる。



幾春別川三笠山橋(KP23.40)付近

※写真出典：北海道開発局

表 2－9 幾春別川における確認種

区分	確認種
植生	クサヨシ、ヤナギ、ハンノキ、エゾイタヤ、シナノキ、ハリエンジュ、ケヤマハンノキ、オオヨモギ、ヨシ他
鳥類	マガン、ヒシクイ、コハクチョウ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ミコアイサ、カワアイサ、クマタカ、チゴハヤブサ、イソシギ、オオジシギ、コノハズク、カワセミ、クマゲラ、ハクセキレイ、オオヨシキリ、カワラヒワ、ハギマシコ他
魚類	スナヤツメ、カワヤツメ、ウグイ、ウグイ属、ドジョウ、フクドジョウ、ワカサギ、サケ、サクラマス、ハナカジカ他
両生類・は虫類	ニホンアマガエル、エゾアカガエル他
陸上昆虫類等	アキアカネ、ヒメクサキリ、エゾエンマコオロギ、ベニシジミ、モンシロチョウ他
底生動物	アカマダラカゲロウ、エリユスリカ亜科、オオクママダラカゲロウ他
哺乳類	オオアシトガリネズミ、エゾヤチネズミ、イタチ他

※北海道開発局調べ

支川の夕張川は、源流を富良野芦別道立自然公園に発しており、上流域は落葉広葉樹の山林に覆われ、溪流性の魚類や森林性の鳥類の生息する自然環境豊かな河川となっている。中流域では、水田・耕作地帯を貫流しており、河岸にはヤナギ林が連続し、イタヤカエデ・シナノキなどの落葉広葉樹の生育する山地丘陵部に隣接する区間もある。魚類は、ウグイ類、フクドジョウなどが生息し、鳥類はオオジシギ、ヤマセミなどが確認されているほか、マガンなどのガン・カモ類も見られる。下流域は石狩平野の水田地帯を貫流し、河岸はヤナギ林が点在するほか、ミクリなどの湿性植物も部分的に生育している。魚類は、ウグイ類、カワヤツメなどが生息し、鳥類は、オオジシギ、カワセミなどが確認されているほか、チュウヒなどの猛禽類、マガン、コハクチョウなどのガン・カモ類も見られる。



夕張川川端橋(KP44.50)付近

※写真出典：北海道開発局

表2-10 夕張川における確認種

区分	確認種
植生	クサヨシ、ヤナギ、ハンノキ、エゾイタヤ、シナノキ、ハリエンジュ、ケヤマハンノキ、ミズバショウ、ミクリ、オオヨモギ、ヨシ他
鳥類	アオサギ、マガン、コハクチョウ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ミコアイサ、オジロワシ、ハイタカ、チュウヒ、イソシギ、オオジシギ、カワセミ、ヤマセミ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、アカモズ、カワラヒワ他
魚類	カワヤツメ、コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、ヤチウグイ、エゾウグイ、ウグイ、ウグイ属、モツゴ、タモロコ、フクドジョウ、ワカサギ、ヨシノボリ類他
両生類・は虫類	ニホンアマガエル、エゾアカガエル他
陸上昆虫類等	アキアカネ、ノシメトンボ、ツユムシ、イナゴモドキ、オオチャバネセセリ、ベニシジミ、モンシロチョウ他
底生動物	エリユスリカ亜科、アカマダラカゲロウ、オヨギミミズ科の一種他
哺乳類	オオアシトガリネズミ、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、アライグマ、ヒメネズミ、キタキツネ、イタチ他

※北海道開発局調べ

支川の千歳川は、支笏洞爺国立公園内にある我が国有数の透明度を誇る支笏湖を源流としており、上流域は針広混交林や落葉広葉樹に覆われた溪流であり、アメマスなどの渓流性の魚類や森林性の鳥類などが生息し、自然環境が豊かなものとなっている。下流域は、市街地や農地に隣接する区間となっており、魚類についてはスナヤツメ、降海型イトヨやヤマメなどが確認されているほか、国内有数のサケの遡上河川でもある。鳥類ではオオジシギやカワセミが確認されているほか、オオタカなどの猛禽類、マガモ、コハクチョウなどのガン・カモ類も見られる。



千歳川舞鶴橋(KP28.40)付近

※写真出典：北海道開発局

表 2-11 千歳川における確認種

区分	確認種
植生	ヤナギ、ハリエンジュ、シラカンバ、ヤチダモ、ミクリ、オオヨモギ、ヨシ他
鳥類	アオサギ、コハクチョウ、オシドリ、マガモ、ヒドリガモ、ホオジロガモ、カワアイサ、オオタカ、ハイタカ、チゴハヤブサ、イソシギ、オオジシギ、カワセミ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、アカモズ、シマアオジ、カワラヒワ他
魚類	スナヤツメ、シベリアヤツメ、カワヤツメ、エソウグイ、ウグイ、ウグイ属、フクドジョウ、サケ、ヤマメ、アメマス、降海型イトヨ、キタノトミヨ、ハナカジカ、ジュズカケハゼ他
両生類・は虫類	※ 確認種なし
陸上昆虫類等	カワトンボ科、ノシメトンボ、ツユムシ、ヒナバッタ、ハラヒシバッタ、ギンイチモンジセセリ、ベニシジミ他
底生動物	ミズムシ、オオエゾヨコエビ、オヨギミズ科の一種
哺乳類	エゾヤチネズミ、キタキツネ、イタチ他

※北海道開発局調べ

支川の豊平川は、支笏洞爺国立公園を源流とし、札幌市の都市用水の水源で、洪水調節の要である豊平峡ダム、定山溪ダムを有しており、同河川の扇状地上に発達した関東以北最大で180万人を超える人口を擁する札幌市街部を貫流する河川である。上流域は、源流でエゾマツ・ダケカンバ群落の山林があり、下流に行くにしたがい、イタヤカエデ・シナノキ群落が広がっている。中流部は札幌市内を流れる急流河川であり、河岸にはヤナギ林が点在する程度となっている。魚類についてはカワヤツメ、ヤマメなどが確認され、扇状地上の湧水箇所では、サケの自然産卵床も多数確認されている。鳥類については、カワセミ、カワラヒワなどが確認されている。下流域についてはヤナギ類を中心とした河畔林が連続しているほか、ミクリなどの湿性植物も部分的に生育している。魚類についてはウグイ類、フクドジョウ、キタノトミヨなどが生息し、カワセミ、カワラヒワなどの鳥類が確認されている。



豊平川南大橋(KP15.40)付近

※写真出典：北海道開発局

表2-12 豊平川における確認種

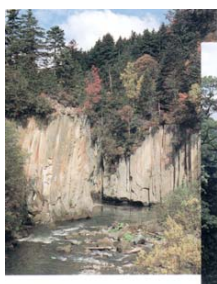
区分	確認種
植生	クマイザサ、マコモ、クサヨシ、ヤナギ、ハンノキ、ハリエンジュ、イタヤカエデ、シナノキ、ケヤマハンノキ、ヒシ、オオヨモギ、ヨシ他
鳥類	マガモ、カワアイサ、オジロワシ、イソシギ、オオセグロカモメ、カモメ、ヤマセミ、カワセミ、イワツバメ、ハクセキレイ、カワラヒワ他
魚類	スナヤツメ、カワヤツメ、エゾウグイ、ウグイ、ウグイ属、モツゴ、ドジョウ、フクドジョウ、アユ、サケ、ヤマメ、キタノトミヨ、ハナカジカ、ジュズカケハゼ、アシシロハゼ他
両生類・は虫類	トカゲ他
陸上昆虫類等	ウスバキトンボ、ノシメトンボ、カンタン、トノサマバッタ、ツバメシジミ、カバイロシジミ、モンキチョウ他
底生動物	エリユスリカ亜科、ウルマーシマトビケラ、コガタシマトビケラ属他
哺乳類	イタチ他

※北海道開発局調べ

2-3. 特徴的な河川景観や文化財等

① 景観・景勝地

石狩川の源流部は大雪山国立公園に指定され、亜寒帯特有の針広混交林の森林景観が広がっている。層雲峡や天人峡等には柱状摂理の発達した美しい峡谷が形成されており、幾つもの滝の落ちる景観が、全国から多くの観光客を呼ぶ景勝地となっている。峡谷を抜けた流れは、旭川市を中心とした上川盆地に出るが、ここでは河川周辺に農地が広がり開放的な景観が特徴となるほか、上川盆地の南部には、美瑛・富良野のなだらかな丘陵地の広がる特徴的な農村景観が広がっている。上川盆地の下流端には、大陸、海洋プレートの激しい構造運動により形成され、アイヌの人々の間で、奇岩怪石が多く船行の難所のため魔神の居る里「魔の里」として呼ばれていた神居古潭があり、独特の巨岩帯と青い川の流れのコントラストや落葉広葉樹林に覆われた景観が広がり、秋の紅葉の季節などに多くの観光客が訪れている。この部分を抜けると石狩平野の開放的な農地景観が広がる。空知川合流点から河口までの下流域は、沿川に数多くの旧川（三日月状の河跡湖）が残されており、その背後に広がる水田地帯と併せて、石狩川を象徴する壮大な景観を醸し出している。



層雲峡・大函小函(上川町)



神居古潭(旭川市)



美瑛の丘の風景(美瑛町)



池の前水上公園(滝川市)



袋地沼ヘラブナ釣り場(砂川市)



袋地沼白鳥公園(新十津川町)



しのつ湖(新篠津村)



茨戸川(石狩市)

※美瑛の丘の風景写真出典：北海道開発局
※その他写真出典：「石狩川百系」

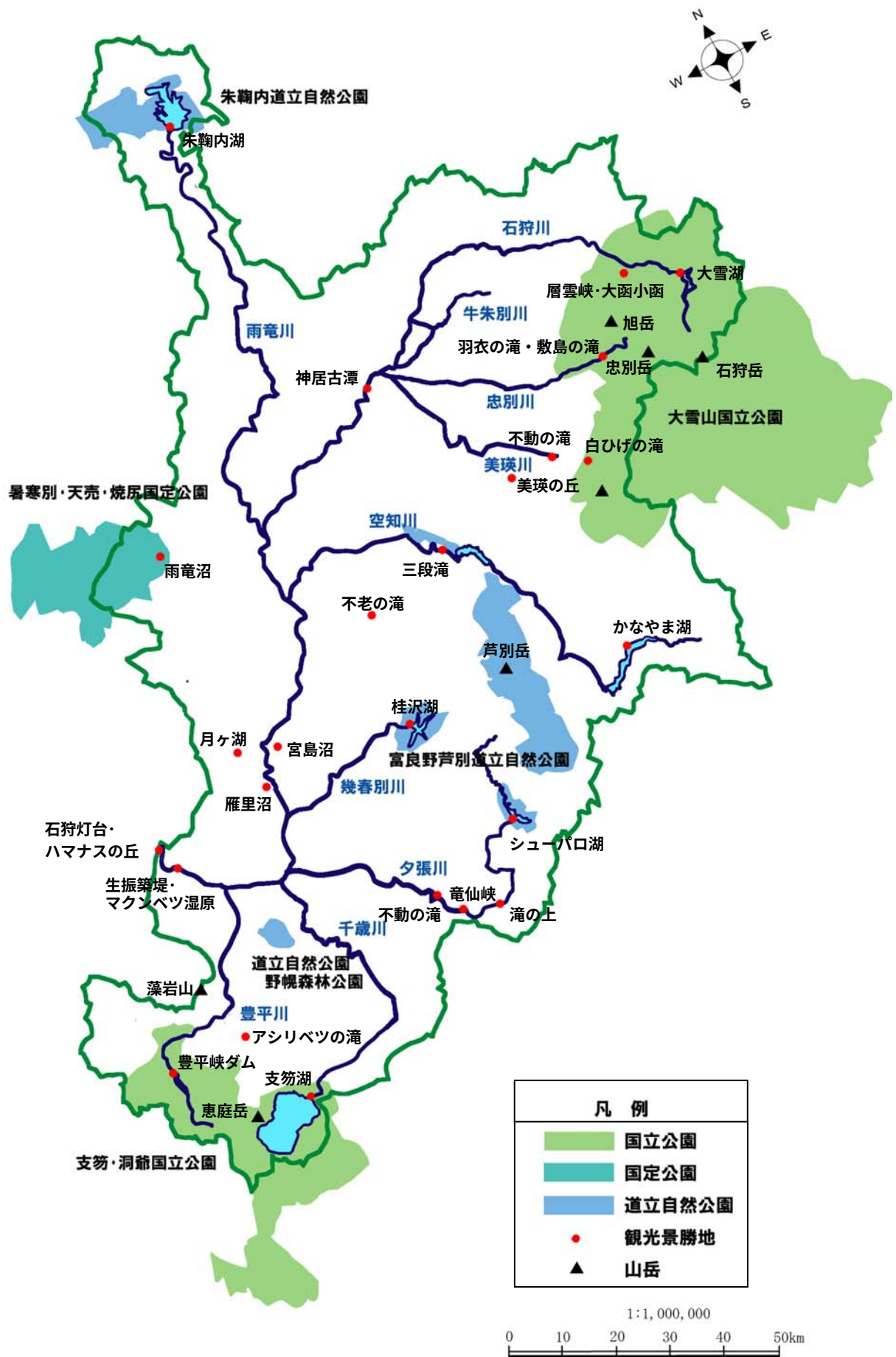
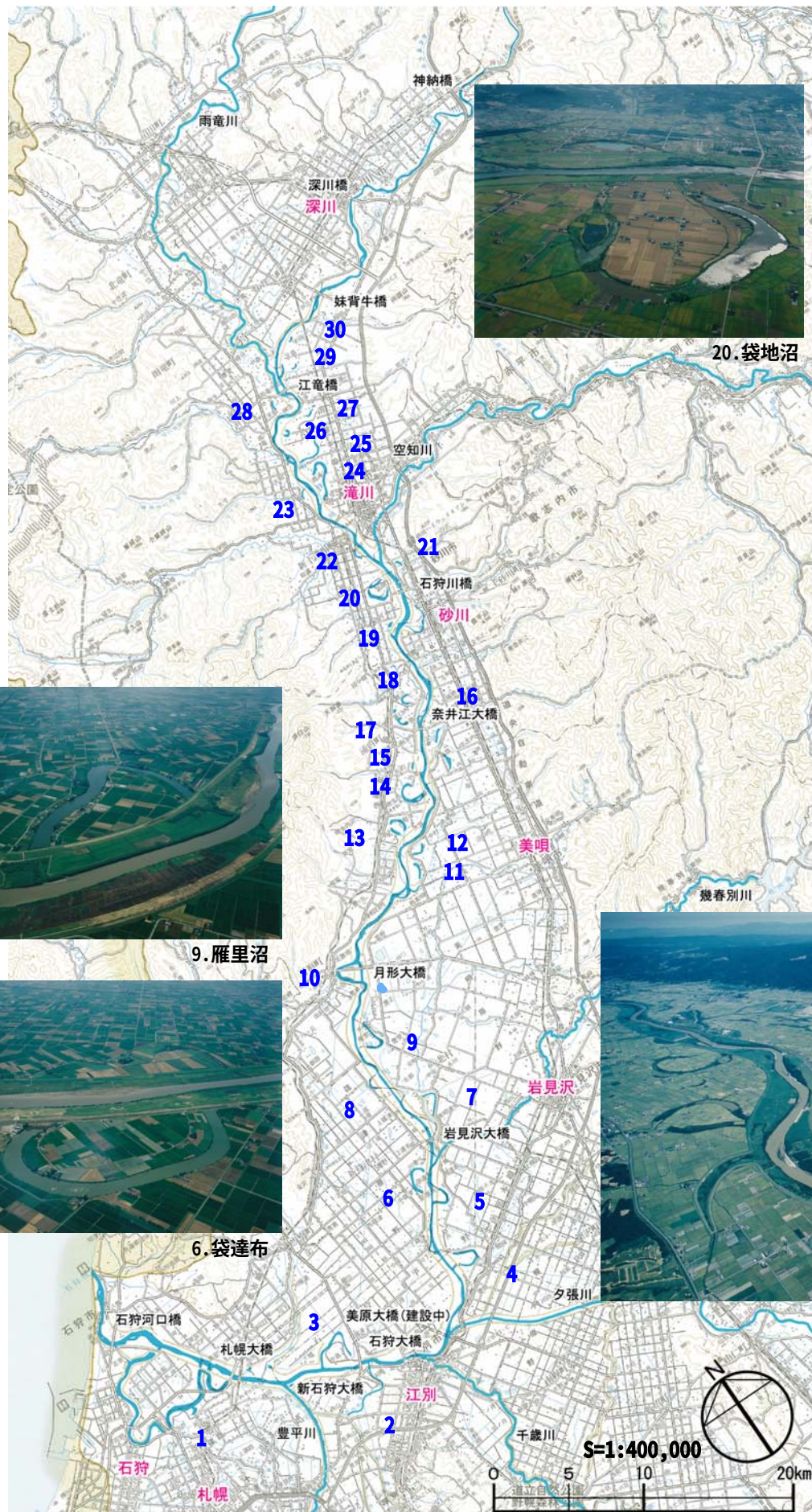


図 2 - 2 観光景勝地位置図

※北海道開発局調べ



位置	名 称
1	茨戸川
2	旧豊平川
3	篠津川下流
4	巴農場
5	幌達布
6	袋達布
7	美唄達布
8	川上
9	雁里沼
10	大曲右岸
11	イトウ沼
12	菱沼
13	三軒屋
14	新沼
15	浦臼沼
16	瑞穂
17	トイ沼
18	ピラ沼
19	下徳富
20	袋地沼
21	北光沼
22	中徳富
23	志寸沼
24	池の前
25	蛸の首
26	江部乙9丁目
27	ウリュウ沼
28	丹波の沼
29	江部乙川
30	手島

石狩川の旧川群

※北海道開発局調べ
※写真出典：北海道開発局

図2-3 石狩川下流における旧川

② 文化財

石狩川流域には、時計台（旧札幌農場演武場）や赤レンガ（北海道旧本庁舎）など北海道開拓の歴史を物語る多くの文化財が存在している。また、先住民族であるアイヌ民族に係るものや、更にそれ以前の有史以前の文化財・史跡などが数多く存在している。これらは、石狩川流域の歴史的な特性を示す資料であり、流域に古くから人が住み、様々な時代背景を積み重ねながら、歴史を育んできたことを物語っている。

表 2－13 石狩川流域の文化財一覧

名 称	所 在 地	指定 区分	指定年月日
【重要文化財】			
八窓庵(旧舎那院忘筌)	札幌市中央区中島公園 1 番	国	昭和11.9.18
豊平館	札幌市中央区中島公園 1 番	国	昭和39.5.26
北海道庁旧本庁舎	札幌市中央区北 3 条西 5	国	昭和44.3.12
北海道大学農学部(旧東北帝国大学農科大学) 第2農場	札幌市北区北 8 条西 5 丁目 北海道大学構内	国	昭和44.8.19
北海道大学農学部植物園・博物館	札幌市中央区北 3 条西 8 丁目 北海道大学農学部附属植物園内	国	平成元.5.19
旧札幌農学校演武場(時計台)	札幌市中央区北 1 条西 2 丁目	国	昭和45.6.17
北海道江別太遺跡出土品	江別市緑町西 1 丁目38番地 江別市郷土資料館内	国	平成5.6.10
動物形土製品	千歳市東雲町 2 丁目 千歳市民会館内	国	昭和54.6.6
太刀銘 国俊	夕張郡栗山町679	国	昭和8.1.23
刀無銘 伝来国行	夕張郡栗山町679	国	昭和31.6.28
旧旭川偕行社	旭川市 4 区 1 条 1 丁目	国	平成元.5.19
北海道元江別1遺跡土墳墓出土品	江別市緑町西 1 丁目38番地 江別市郷土資料館内	国	平成7.6.15
【重要有形民俗文化財】			
アイヌのまるきぶね	札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 北大農学部附属博物館	国	昭和32.6.3
【重要無形民俗文化財】			
アイヌ古式舞踊	札幌市白石区本通20丁目南 8 札幌ウポポ保存会	国	平成6.12.21
アイヌ古式舞踊	千歳市蘭越90-26 千歳アイヌ文化伝承保存会	国	平成6.12.21
アイヌ古式舞踊	旭川市北門町11丁目 旭川チカップニアイヌ民族文化保存会	国	昭和59.1.21
【有形文化財】			
琴似屯田兵屋	札幌市西区琴似 1 条 7 丁目琴似神社境内	道	昭和39.10.3
札幌市K-446遺跡出土の遺物	札幌市中央区南22条西13丁目札幌市埋蔵文化財センター	道	昭和55.8.12
旧永山武四郎邸	札幌市中央区北 2 条西 6 丁目 2 番地	道	昭和62.11.27
野幌屯田兵第二中隊本部	江別市野幌代々木町39番地	道	昭和33.4.10
阿弥陀如来立像	恵庭市上山口476番地 天融寺	道	昭和34.2.24
美唄屯田兵屋	美唄市字美唄1264番地	道	昭和47.2.17
本願寺駒通	雨竜郡沼田町字北竜399番地	道	昭和46.3.5
滝里遺跡群出土遺物	芦別市北4条東1丁目1番地星の降る里百年記念館	道	平成12.4.14
【史跡】			
開拓使札幌本庁本庁舎跡及び旧北海道庁本庁舎	札幌市中央区北 2 条西 5	国	昭和42.12.15
琴似屯田兵村兵屋跡	札幌市西区琴似 2 条 5 丁目	国	昭和57.5.7
島松駅通所跡	北広島市島松	道	昭和43.3.29
旧島松駅通所	北広島市島松	国	昭和59.7.25
キウス周堤墓群	千歳市中央410番地の 2 ほか	国	昭和54.10.23
ウサクマイ遺跡群	千歳市蘭越27番地ほか	国	昭和54.5.23
江別古墳群	江別市元江別858番地の 1 ほか	国	平成10.9.11
音江環状列石	深川市音江町字向陽171番地	国	昭和31.12.28
神居古潭竪穴住居遺跡	旭川市神居古潭	道	昭和32.12.20
野花南周堤墓群	芦別市野花南町3256番地	道	平成12.4.14
【名勝】			
羽衣の滝	上川郡東川町天人峡	道	昭和26.9.6

※出典：「北海道市町村勢要覧」より抜粋整理

重要文化財



豊平館／札幌市(国指定)



北海道庁本庁舎／札幌市(国指定)



北海道大学農学部第2農場
／札幌市(国指定)



北海道大学農学部植物園
・博物館／札幌市(国指定)



旧札幌農学校演武場(札幌時計台)
(国指定)



旧旭川偕行社／旭川市(国指定)

有形文化財



旧永山武四郎邸／札幌市(道指定)



野幌屯田兵第二中隊本部／札幌市
(道指定)



美唄屯田兵屋／美唄市(道指定)



本願寺駅通／沼田町(道指定)

史 跡



琴似屯田兵屋／札幌市(国指定)



旧島松駅通所／北広島市(国指定)



音江環状列石／深川市(国指定)

※写真出典：北海道開発局

③ 伝承・文学

石狩川水系の各河川は、古くから数多くの文学作品に登場している。古くは先住民族であるアイヌの人々の叙事詩であるユーカラなどの伝承文学に、石狩川をはじめとした流域の各河川が舞台として登場している。流域の地名もアイヌの人々の呼び名を継承しているものも多く、石狩川の語源もイシカラベツ（曲がりくねった川）であるとされている。明治には、国木田独歩によって始めて石狩川水系を題材とした小説が書かれ、その後も石川啄木の短歌に詠われた他、高村光太郎などの作品に登場している。大正に入ってから、武者小路実篤、有島武郎などによって描写され、昭和においては、三浦綾子などの作品に登場している。

これらの文学作品における河川の記述は、作品当時の河川の姿を作家の感性と視点で描写されたものであり、当時の河川の姿を知る上で重要な資料となる。

表2-14 石狩川水系に関わる文学

作 家	作品名	河川名	引用文	備 考
国木田独歩	空知川の岸边	空知川	「余は今も尚空知川の沿岸を思うとあの冷厳なる自然が余を引きつけるように感じるのである。」	明治28年当時24歳の独歩が北の新天地を求めて北海道を訪れた。後年描かれた紀行記で、雄大な空知の自然が描かれている。
徳富蘆花	みみずのたはごと 寄生木	石狩川	「暗緑色の石狩川が悠々と流れている。深い深い地の底にでも落ちた様で川おとがますます耳について～」	
有島武郎	生まれ出づる悩み	豊平川	「私の借りた札幌の家は札幌の町端れを流れる豊平川という川の右岸にあった。その家は堤の下の一町歩程もある大きな林檎園の中にあった。」	岩内の漁夫画家である木田金次郎をモデルに書かれた小説。明治43年、当時17才の金次郎が有島邸をはじめて訪れる場面。
武者小路実篤	流れ (明治44年「白樺」) 或る男	豊平川	「豊平川の堤に腰かけて 川の面を見つめていると 流れてゆくゆく ぴしゃぴしゃと白波たてながら～」	
森田たま	豊平川 石狩少女 随筆「きぬた」	豊平川	「幼い日の夏の追憶は、豊平川の清冽な水の色から始まる。」	明治27年に生まれたたまの生家は当時の市街の東のはずれでその先は原っぱがそのまま豊平川まで続いている所であった。
本庄睦男	石狩川	石狩川	「(開拓使庁の鐘の)響きは、やがて名実ともに都庁となるであろうこのきり拓かれた一郭からひろい原野へ、イシカリ川の灌漑する涯のない平原へ、さえぎるものも無くごんごんと拡がっていくように思われた。」	維新の戦いに敗れた伊達岩山支藩の主従が石狩当別に入植するまでの苦難の道を描いた歴史小説。
船山肇	石狩平野 北国物語	豊平川	「次郎の体は濁流に没したまま二度と浮上しなかった。」	札幌の歴史と人間愛を壮大に描いた小説。
石川啄木	一握の砂 札幌		「空知川雪に埋もれて鳥も見えず 岸边の林に人ひとりいき」	明治40年5月に北海道に渡ってから1年に満たない流浪の旅を続けた啄木が、後に北国の四季を鋭敏に歌った不朽の処女歌集。
柿本良平	石狩の歌	豊平川 石狩川	「豊平川は白い小石にはさまれた帯のやうな流れを茜色の夕日にそめていた。」 「馬の背がやや汗ばんだ頃、はるかな左手に蜿蜒とした川の流れが鉛いろに光って見えた。ペパン川、ヒイエ川などの細流をかき集めて谿をくぐりぬけてきた石狩川が次第に肥えふとりつつ百里の途をいそいでいるのである。」	鱒一彦の青春時代と人生の出発期を描いた半生記。昭和17年発行

※北海道開発局調べ

作 家	作品名	河川名	引用文	備 考
辻村とも子	馬追原野	夕張川 石狩川	「馬追原野はこの夕張川が最も奔放にその水路を曲がりくねらせている部分に当たっているの、ところどころに気まぐれな水流がとり残していった古川がいつか沼に変わって濁った水をたたえている湿地をまじえた沃土であった。」 「上川盆地は、この山々に囲まれて水量豊かな石狩川を抱いて、その沃野を展げているのだ。」	開拓者であった父の日記をもとに開拓者の生活と当時の社会情勢を豊かな表現力で語っている。
坂東三百	兵村	石狩川	「開拓当時の村は文字通りの森林続きである。～黒熊が出没したり、大きな蛇が這い出してはぞっとさせた。唯、遙か大雪山に源を発する石狩川は颯爽と村の北境を洗ひ、比処では鮭、鱒が捕れ、ウグヒ、ヤツメ、カジカ等の小魚は群れを成していた。」	開拓者の歴史や現状を通して人間の生死の姿や、人生の窮極するところを探求した短編集。
三浦綾子	氷点	美瑛川	「この見本林を三百メートルほどつきぬけると、石狩川の支流である美瑛川の畔りに出る。水を溶かしたような青い流れの向こうに、冬にはスキー場になる伊の沢の山が見え、遙か東の方には大雪山につらなる十勝岳の連邦がくっきりと美しい。」	旭川の眼科医の一家に訪れた事件を通じて、キリスト教の「原罪意識」を追求した大作。
高橋揆一郎	北の旗雲 ポプラと軍人 伸予 観音力疾走 友子	豊平川	「溪流の岩肌が天日に白く灼けていた。足を浸している流れの水を掬って岩肌に垂らしてやると水は濃い血のように幾条にも、別れて、傾斜の上の方からみるみる乾いていく。」	戦争と敗戦の動乱の中の札幌で思春期を生きる多感な青年の心理を描いた作品。主人公は当時豊平川の溪流に沿って走る電車で定山溪温泉を訪れている。
小檜山博	光る女 出刃	豊平川	「窓から豊平川が見えた。いくぶん水嵩が増している。土手にはまだ雪が残っていた。街の向こうに立っている白い手稲山に陽が当たり、チカチカ光る。」	滝ノ上の山奥から札幌に出てきた主人公が働いた会社は豊平川のそばにあった。
鈴木トミエ	石狩百話(編集) さけとわかもの (絵本)		「川に近い土地を耕していた農家の人たちは開拓以来なんとかして水害から逃れたいと願っていた。石狩川の水害で悩む農家の人たちは、生振ばかりではない。」(第19話 石狩川の治水工事より)	取材と資料で裏づけされた百の話しから、開拓期から現在の都市化の時代までの石狩の歴史を通観する。
倉島齋	札幌の灯 米軍基地キャンプ クロフォード		「～幅の狭い木造の幌平橋を、橋板を鳴らして渡った。～その後、豊平川の東堤防を豊平橋の方へ四町あまり戻った。そこで堤防を降りて、林檎園の前の狭い道路を進んだ。」	
原子修	イシカリ川で死んだ 声楽家への鎮魂歌 鳥影 未来からの銃声		「～しかしイシカリ川の岸辺に立つと すべての水の粒子をつらぬいてうたうあなたの ジュビアーレな声帯のふるえ～」	

※北海道開発局調べ

2-4. 河川環境を取り巻く背景

石狩川流域の本川及び支川の直轄区間における河川敷占用状況をみると、占用面積は目的別では田畑や採草放牧地が大きいものとなっているが、これに次いで公園緑地の占用面積も大きく、石狩川は市民生活における親水空間として地域にとけ込み、地域振興、都市景観の向上などに利用されている。

人口が集中する都市部では、都市内の貴重なそして身近な自然空間として親しまれているとともに、様々な形でレクリエーション利用が図られている。活用の内容は、野球、サッカー、テニスなどの運動広場から、多目的広場、花壇、散策路、サイクリング園路、市民ゴルフ場など多岐にわたり、またこうした河川空間を活用しながら、いかだ下りや花火大会、マラソン大会などのイベントに広く活用されており、最近では新しい河川敷地の利用として、スカイスポーツ等の利用も増大している。石狩川流域では11月中旬から4月中旬の約半年に及ぶ積雪期間があるが、近年、都市域では冬まつりや歩くスキーなどにも利用されており、四季を通じた活用が図られている。

一方、都市を離れた地域では、河川の持つ豊かな自然環境を活用して、魚釣り、自然観察、環境教育など自然とのふれあいを主体とした利用が図られている例が多い。また、こうした地域では、かつての石狩川が蛇行していた名残をとどめる袋達布、袋地沼、雁里沼、大曲右岸等の三日月湖が数多く点在し、静水面と周辺の豊かな植生により河川公園、魚釣り、ボートなどに利用されているほか、旧川を活用して整備された洪水調節施設である砂川遊水地においても親水性を持った公園としての利用がなされている。

また、各河川の上流部には、大雪ダムを始めとして数多くのダム湖があり、豊かな自然植生の山間を縫流する溪流と共に雄大な四季の景観を演出している。近年、ダム周辺の環境整備が進められ、ダム湖の水面及び周辺の利用も盛んになり、多くの温泉地と共に地域の活性化と北海道観光の重要な資源となっている。



カナディアンカヌー（旭川市）



滝川スカイパーク



金山ダムキャンプ場



豊平川いかだ下り



豊平川河川敷テニス場



さわやかマラソン（豊平川）

※写真出典：北海道開発局



豊平川河川敷野球場

2-5. 市民活動

近年、多くのNPOや市民団体の活動が盛んに行われるようになってきている。こうした状況を背景として、河川についても、カムバックサーモン運動による豊平川のサケ溯上の復活などが行われ、植樹や稚魚の放流などの各種イベントやゴミ拾いといった維持・管理の面でも積極的に参加する人々が増えている。近年では環境教育を通して身近な自然を学ぶ活動が着目されており、水系内においても積極的な活動を行っている例が数多く見られるようになってきている。



サケの稚魚放流の様子(石狩川：旭川市)



ホロヒラみどりづくりの会による緑化活動



カミネッコンによる植樹活動



千歳クリーン活動

※写真出典：北海道開発局

2-6. 自然公園等の指定状況

流域には数多くの自然環境が残されており、中でも特に重要なものについては自然公園としての指定を受けて保全されている。流域の南端には支笏洞爺国立公園が位置し、西端には暑寒別天売焼尻国立公園が位置する他、東端には石狩川の源流部のある大雪山国立公園が位置している。石狩川の支川である空知川の中流域では富良野芦別道立公園が存在し、また雨竜川の上流には朱鞠内道立公園が存在している。これらの自然公園の指定に加えて、流域内には野幌原始林、大雪山が特別天然記念物として指定されている他、藻岩原始林、円山原始林、当麻鍾乳洞、雨竜沼高層湿原帯などが天然記念物として指定されている。河口部には、石狩市海浜植物保護地区に指定されるハマナスの丘公園があり、ハマナスを始めとして150種に及ぶ海浜植物が自生している。また、鳥獣保護区として指定されている個所は50箇所を越えており、流域には数多くの貴重な自然環境が保全されている。



図2-4 石狩川水系における自然環境概要図

表 2-15 石狩川流域の自然公園の指定現況

名 称	指定年月日	土地所有区分別面積(ha)				保護規制計画による地区・地域面積(ha)			主なる景勝地		
		国有地	公有地	私有地	計	特 別 保護地区	特別地域	普通地域	山岳と湖沼	温泉	その他
国立公園	大 雪 山	S.9.12.4	222,836	7,135	923	230,894	35,553	152,608	42,733	層雲峡温泉、愛山溪温泉、勇駒別温泉、天人峡温泉、白金温泉、吹上温泉、糠平温泉、然別湖畔温泉、十勝岳温泉、高原温泉、トムラウシ温泉、菅野温泉、幌加温泉	羽衣の滝、銀河の滝、流星の滝、大瀧・小瀧、沼の原湿原、高根ヶ原、雲の平、五色ヶ原のお花畑、大雪山、十勝スキー場
	支 笏 洞 爺	S.24.5.16	89,917	6,875	1,540	98,332	2,592	54,989	40,751	定山溪温泉、登別温泉、カルルス温泉、北海道温泉、洞爺湖温泉、丸駒温泉、オコタンベ温泉	中山峠、豊平峠、登別地獄谷、大瀧沼、オロフレ峠
	計		89,917	6,875	1,540	98,332	2,592	54,989	40,751		
国定公園	暑寒別天売焼尻	H.2.8.1	18,407	24,337	815	43,559	1,951	40,097	1,511		南竜沼湿原、ペンケベタン峡谷、愛冠海岸、オロロン島、イチイ林、天売西海岸
	計		18,407	24,337	815	43,559	1,951	40,097	1,511		
道立自然公園	富良野芦別	S.30.4.19	34,522	393	841	35,756		31,292	4,464	島の下温泉	北の峰スキー場、十稜別渓谷、東大樹木園
	野幌森林	S.43.5.15	1,606	309	137	2,052		1,912	140	瑞穂池	平地自然林、アオサギの繁殖地
	朱 鞠 内	S.49.4.30	7,080	3,018	3,666	13,764		12,770	994	ビッシリ山、朱鞠内湖、宇津内湖	釜ヶ淵渓谷、二重の滝
	計		43,208	3,720	4,644	51,572		45,974	5,598		

※出典：「北海道自然環境図譜」（(財)前田一步園財団）より抜粋整理

表 2-16 石狩川流域の国指定・特別天然記念物の指定現況

No	名 称	所在地	指定年月日
1	野幌原始林	北広島市広島	昭27.3.29
2	大雪山	上川郡上川町・東川町・美瑛町・新得町	昭52.3.15

※出典：「北海道市町村勢要覧」より抜粋整理

表 2-17 石狩川流域の国指定・天然記念物の指定現況

No	名 称	所在地	指定年月日
1	藻岩原始林	札幌市南区藻岩山	大10.3.3
2	円山原始林	札幌市中央区円山	大10.3.3
3	エゾミカサリュウ化石	三笠市幾春別錦町1丁目三笠市立博物館	昭52.7.16
4	夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯	空知郡南富良野町・夕張市	平8.6.19
5	北海道犬	主な生息地 北海道	昭12.12.21
6	ウスバキチョウ	主な生息地 北海道	昭40.5.12
7	ダイセツタカネヒカゲ	主な生息地 北海道	昭40.5.12
8	アサヒヒョウモン	主な生息地 北海道	昭40.5.12
9	クマゲラ	主な生息地 北海道	昭40.5.12
10	カラフトトリシジミ	主な生息地 北海道	昭42.5.2
11	オジロワシ	主な生息地 北海道	昭45.1.23
12	オオワシ	主な生息地 北海道	昭45.1.23
13	エゾシマフクロウ	主な生息地 北海道	昭46.5.19
14	コクガン	主な生息地 北海道	昭46.5.19
15	ヒシクイ	主な生息地 北海道	昭46.6.28
16	マガン	主な生息地 北海道	昭46.6.28
17	ヒメチャマダラセセリ	主な生息地 北海道	昭50.2.13

※出典：「北海道市町村勢要覧」より抜粋整理

表 2-18 石狩川流域の道指定・天然記念物の指定現況

No	名 称	所在地	指定年月日
1	当麻鍾乳洞	上川郡当麻町開明4区	昭36.3.17
2	雨竜沼高層湿原帯	雨竜郡雨竜町338番地の2	昭39.10.3
3	夕張の石炭大露頭	夕張市高松6番地	昭49.12.6
4	タキカワカイギュウ化石標本	滝川市新町2丁目5番30号滝川市美術自然史館	昭59.3.21
5	黄金水松	芦別市黄金町764番地	平14.3.29

※出典：「北海道市町村勢要覧」より抜粋整理

表 2-19 石狩川流域の道指定・名勝の指定現況

No	名 称	所在地	指定年月日
1	羽衣の滝	東川町天人峡	昭26.9.6

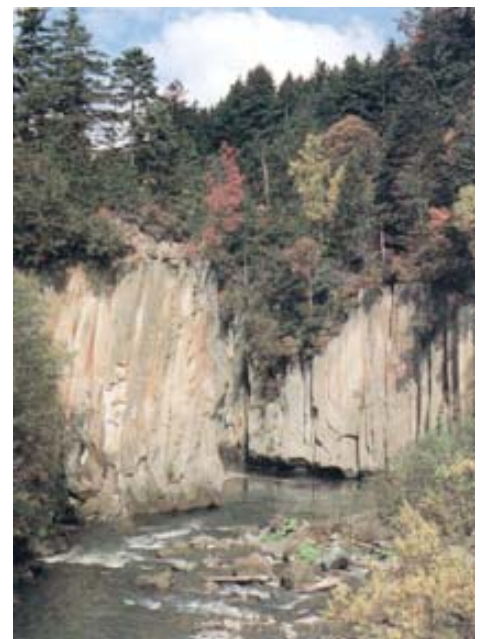
※出典：「北海道市町村勢要覧」より抜粋整理



支笏洞爺国立公園



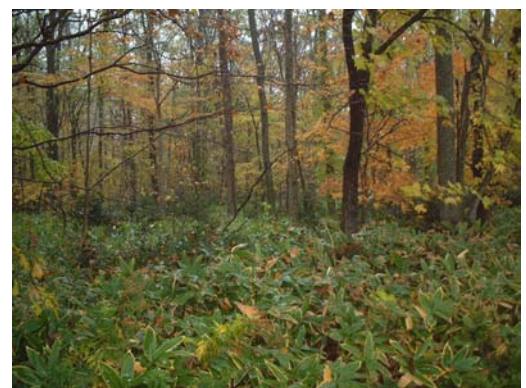
富良野芦別道立自然公園(三段の滝)



大雪山国立公園(層雲峡)



朱鞠内道立自然公園



道立自然公園野幌森林公園

※写真出典：北海道開発局

特別天然記念物



野幌原始林／北広島市(国指定)



大雪山／上川町・東川町・美瑛町・新得町
(国指定)

天然記念物



藻岩原始林／札幌市(国指定)



当麻鍾乳洞／当麻町(道指定)



円山原始林／札幌市(国指定)



雨竜沼高層湿原帯／雨竜町(道指定)



夕張の石炭大露頭／夕張市(道指定)

※写真出典：北海道開発局